



『 C型肝炎の新しい治療法について 』

C型肝炎の治療法には、抗ウイルス療法と肝庇護（かんひご）療法があります。

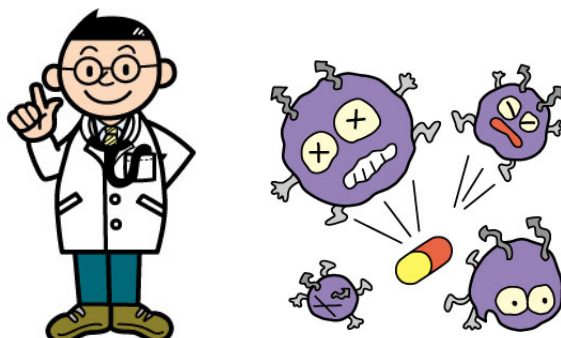
治療の選択としては、ウイルス駆除の可能性がある患者さんに対して、抗ウイルス療法が第一に選択されます。それ以外の患者さんでは肝庇護療法が中心となります。

抗ウイルス療法は、注射薬（インターフェロン）と経口薬（リバビリン）との併用療法が標準治療となっており、難治性である1型抗ウイルス量症例では約 50%、それ以外の症例では約 90%ウイルスを排除できます。

最新の治療は、前述の標準的治療にプロテアーゼ阻害薬（テラプレビル）という経口薬を加えた3剤併用療法です。著効率は高くなりますが、副作用が強く、皮膚疾患、腎疾患、貧血、うつ症状などの重篤な副作用が報告されているので、注意が必要です。

将来の治療としては、インターフェロンを用いずに内服薬（酵素阻害薬）を2剤併用する治療が開発されています。

今後C型肝炎に対する抗ウイルス治療は、大きく変貌するものと思われる。



鹿児島厚生連病院
肝臓・生活習慣病内科部長
庄 幸彦